

尿床

社の人皆天折せり、ひとり陶三秀といふ醫者ありしが、これははやくさとりて、其社を辭して六十餘までいきたり、予が若き頃、三秀が甚だ小食なるを見て、其よしを問ひしに、其社中皆異病にて死し、おのれ減食してまぬかれしといふ、其後近村平野村に、またこの事はやりて、人多く異病をやみぬ、其社中に清右衛門といふ若者あり、膂力も人にすぐれ、無病なりしが、ふと遺弱す、それよりまげくなりて、つひに坐上に溺するを覺えず、發狂して死したり、食うてすぐに食傷はせざれども、つもりく、て不治の病となるなり、一日に五合の食は吾邦の通制なり、是にて飛脚をもつとめ、軍にもいづるなり、されば人々心得べき事にこそ、軍行には一升、戰の日は二升のかては、其時々、の事にて常にあらず、

〔醫心方十二〕治尿牀方第廿四

病源論云、人有於眠、睡不覺尿出者、是其稟質陰氣偏盛、陽氣偏虛者、則膀胱腎氣俱冷、不能溫制於水、則小便偏多、或不禁而遺失爪、

〔覆載萬安方一〕遺尿　ヲボヘズシテ小兒下出、是云遺尿也、

尿床イハリスユカ　睡裏尿也、世俗云シト、又云、夜シト、

〔倭訓栞中編二十八〕よるばり　遺尿をいふ、夜のゆばりの義なるべし、よしと、もいへり、夜尿シトの義なり、

〔病名彙解一〕俗ニ云ヨツバリナリ、病源ニ云、夫人眠睡ニ覺ヘズシテ尿出ルモノアリ、是其稟質陰氣ヒトヘニ盛ニ、陽氣ヒトヘニ虛スルモノナリ、夜臥トキハ陽氣衰伏シテ、陰ヲ製スルコトアタハズ、コノユヘニ陰氣獨リ發シテ、水下リテ禁ゼズ、故ニ眠睡シテ覺ズ尿出ルナリ、

〔叢桂亭醫事小言五〕小兒尿床

尿床ハ、灸効第一ニ、十三椎骨ノ左右ヲセマリテ五十壯バカリス、神驗アリ、又關元田丹モ良シ、夫